

【はじめに】

社会学はよく「当たり前＝常識」を問う学問といわれ、それが社会学の面白さの一つになっています。ただ社会学を学び始めた人が、社会学のテキストだけで、その面白さを実感するのは、なかなか難しいです。そこで本書『DIY社会学』は、社会学の面白さを少しでも味わってもらえるように、とりあえず社会学を「実際にしてもらう」ことをイメージして作ってみました。

「とりあえず社会学をしてみる」というと、少し違和感があるかもしれません。でもそうやって何かを始めることはむしろ普通のことです。たとえばサッカーであれば、公園や運動場などで、とにかくボールを蹴って追いかけることから始めるでしょう。そのとき、「ボールを蹴ってゴールに入れる」とか「ボールを手で持って移動してはダメ」といった基本的なルールは共有していますが、あとは見よう見真似で、サッカーらしきことを楽しむ。そうするうちに、もっと上手になりたくて練習をしたり、サッカーのルールや技術について勉強したりするようになります。

社会学とも、こんな出会い方があってもいいのでは、と思うのです。社会学の詳しい用語や方法などはよく分からないけれど、読者となってくれたあなたが、この本を執筆している私たちと、一緒に社会学をやってみたら、「ちょっと面白かった」と。まるで公園や空き地での遊びのように、社会学と出会うわけです。

「何の変哲もない日常」が、社会学という道具を使うことで、じつはたくさんの「謎」に満ちた不思議な世界に見えてくる面白さや、「こうあるべき」と囚われていた世界から、「こうもありうる」と別の世界を想像し、創造していく社会学の面白さを、この本で味わってもらえれば、と思います。そしてあなたが、もっと社会学を知りたい、学びたいと、ほかの社会学のテキストや、古典といわれる社会学の本に手を伸ばしてくれたなら、その時があなたにとって、本当の意味での、「自分でする」社会学の始まりとなるでしょう。この本が、そんな「始まり」につながることを心から願っています。